

# 平成 29 年度 水環境文化賞「みじん子賞」を受賞して

西岡さかな組 山口 貴 司

## 1. はじめに

この度は名誉ある賞をいただきまして、誠にありがとうございます。受賞者を代表しまして、お礼申し上げます。

西岡さかな組は、札幌市の西岡公園で、その水環境の豊かさを、西岡さかな組の隊員であるお子さんたちのみならず、保護者や専門家、公園ボランティアとともに体感し、さらに発信していくことを目的とした活動です。今回の受賞は、今後も活動を継続するうえで、関わるすべての人にとって大変な励みとなります。

## 2. 西岡公園の環境と子どもたちとの1年

西岡公園は、1908年に月寒川をせき止めてできた西岡水源池を中心に据え、森林と住宅街に挟まれた約40ヘクタールの面積を有する都市公園です。水源池の上流には、川の堆積物による湿原が広がり、さらに川を挟む山々からの湧水も点在し、様々な水環境に触れることができます。

そんな環境で活動する西岡さかな組は、毎年4月に参加者を募り、小学生約10名で活動を開始します。まだ所々に雪が残る季節に行うエゾアカガエルやエゾサンショウウオの卵塊調査では、初めて活動に参加した隊員が川や沼に恐る恐る近づくと、参加2年目以降の隊員は恐れることなく「冷たい!」「寒い!」と笑顔で話しながら、両生類の卵に近づいていきます。新入りの隊員は先輩の後に続き調査地へ入り、そして卵塊に触れたとき「ちょっとあたたかい!」と初めての気づきを得るのです。卵塊調査では、卵塊はもちろん、環境の記録も含めた公園内の分布図を作成していきます。そして、随所へ入る専門家からのお話を聞いて目を輝かせているうちに活動終了の時間となります。

その後は、「魚類」のほかに「二枚貝」や「水生昆虫」などのテーマに沿った専門家をゲスト講師として迎え、10月まで野外活動を行います。ここまでがインプットだとするならば、11月以降はアウトプットの活動です。

翌2月には、札幌市内各所で調査結果を展示する報告展を開催するので、それまでに1人1枚、自分で決めたテーマに沿ったポスター論文を仕上げることになります。

「知る」と「伝える」の違いや難しさを感じながらのポスター制作は、中々ハードルが高いのですが、可能な限り本人たちに悩んでもらいます。

報告展開催時には、実際にポスターの前に立ち、自らの言葉で来場者へ解説する機会を設け、その感想を直接いただくことで、それぞれの達成感や成功体験にも繋がっています。昨年度は、6年生が作成した、過去の調査データから魚類以外の生きものについて調べなおし、指標生物から見える西岡公園の環境についてまとめたポスターが好評を得ていました。

## 3. 循環型社会とこれからの西岡さかな組

子どもたちは、学校で環境保護・保全の話を耳にする機会があります。しかし、その保全すべき環境そのものに触れた経験が有るのとないのでは、話を聞いたときの感じ方が異なります。そういった中で、西岡さかな組での体験を通して「知る」「伝える」という経験を得た隊員たちが、どのように成長していくのか、とても楽しみでもあります。そして、卒業していった元隊員たちの中で、活動に関わり続けたいというメンバーはスタッフとして参加してくれています。活動を開始してから10年経ち、初期のメンバーはもう大学生になりました。研究者やネイチャーガイドを目指す卒業生もいます。成長した元隊員が、今度は教える側に立つということは、とても頼もしく、嬉しいことです。

10年前に西岡さかな組を発足したメンバーがいて、いま、子どもたちと活動をしている我々がいて、数年経つうちに現メンバーが交代する日が来ても、そこに代わる誰かがいる、それも循環型社会のひとつの形だと思いますし、これからもバトンを渡していける活動であり続けるならば、それは環境教育の理想的な形のひとつに成り得るのだと思います。

とはいえ、楽しそうなことを、筋は通しつつ、肩肘張らずに続けてきた活動です。将来像はもちろん大切ですが、頭の片隅に置きつつ、今年も新たに加わった仲間と多くの支援者と楽しく活動していきます。これからも西岡さかな組を応援していただくと幸いです。



写真1 二枚貝調査の様子



写真2 大学生スタッフが指導する様子